

産学連携の取組状況

産学連携・研究支援室

長崎国際大学は、地域の観光・福祉・医療の水準の向上を大学の使命の一つとして位置づけ、観光・福祉・医療分野の教育研究の成果を広く社会に還元するため、産学官連携による社会貢献に積極的にかかわっていきます。この目的を実現するために次の方策を掲げ、実践します。

1 地域社会への貢献

地域社会における地(知)の拠点として、地域産業界、地方自治体等との連携を強化し、地域の活性化に貢献する。

2 共同研究・受託研究等の推進

企業や自治体等のニーズに基づいた共同研究・受託研究等に積極的に取り組み、産学官の連携による研究活動を活性化する。

3 知的財産の創出

長崎国際大学知的財産ポリシーに基づき、本学または企業や自治体等との共同研究・受託研究等により創出した知的財産を社会に還元する。知的財産の取り扱いについては、その権利化を図るとともに産業界への技術移転・事業化を進める。

4 人材の育成

産学官連携に関わる授業及び研修会の実施、企業等とのインターンシップの実施など、教育面での連携にも積極的に取り組み、社会の発展に貢献できる人材の育成に努める。

5 産学官連携の管理運営体制の構築

地域社会の地(知)の拠点としての活動を図るため、産学官連携に対する管理体制の構築とその運営を行う。

令和3年度の共同研究、委託研究

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部・特任教授・榊原隆三

相手先機関名、研究代表者名 (株) バイオジェノミクス

研究テーマ：乳酸菌生産物質の生理活性に関する研究

研究内容：数種の乳酸菌を有機栽培大豆から調整した豆乳を培地として発酵させた発酵液には、その過程で乳酸菌が生産する種々の代謝物(以下「乳酸菌生産物質J左いう。)が含まれる。これら乳酸菌生産物質PS-B1によるインスリン感受性維持に関するメカニズムの解明を行う。

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部・准教授・宇都拓洋

相手先機関名、研究代表者名 一丸ファルコス株式会社 開発部次長兼開発3課長 伊藤 賢一

研究テーマ：メラニン産生促進及びオートファジー制御機能を有する天然物に関する研究

研究内容：有用成分を同定し、機能性化粧品、食品原料の開発を行う。

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部特任教授・正山征洋

相手先機関名、研究代表者名 常務理事 清水浩一

研究テーマ：食品の機能性、特に認知症に有効な食品に関する調査研究

研究内容：臨床試験や疫学調査により明らかとなっている認知症予防効果の認められている食品についての文献調査を行う。

委託研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部・講師・榎本彩乃

相手先機関名、研究代表者名 ー

研究テーマ：臨床用 OMRI の技術基盤の構築と実証研究

研究内容：様々な疾病にはフリーラジカルが関係しています。基礎研究では多くのエビデンスが示される一方で、フリーラジカル計測器は臨床機器として確立していません。本研究では大幅な低電力化のアイデアにより、初のフリーラジカル計測・診断医療機器プロトタイプを実現します。その結果、人体中でフリーラジカルと疾病の関係が直接明らかになるため、創薬研究など医療分野において多大な発展をもたらすことが予想されます。

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部・教授・隈博幸

相手先機関名、研究代表者名 株式会社シノテスト 芳村 一

研究テーマ：術前・術後のプロテイン S 比活性測定による静脈血栓塞栓症発症のリスク解析

研究内容：整形外科的手術（特に人工関節置換術）を受ける患者のプロテイン S 比活性を網羅的に解析し、手術による静脈血栓塞栓症発症のリスクを明らかにする。

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名 薬学部・教授・隈博幸

相手先機関名、研究代表者名 超電導センサテクノロジー株式会社・塚本 晃

研究テーマ：磁気マーカーを用いた超高感度免疫検査システムの構築

研究内容：検出用磁気マーカーの作製、測定プロトコール開発（長崎国際大学）、及び磁気センサ改良（超電導センサテクノロジー株式会社）

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名：薬学部・教授・佐藤 博

相手先機関名・研究代表者名：フタムラ化学活性炭事業部 機能営業部部长 遠藤 頼宏、
吸着技術工業 技術グループ 出田 佑允

研究テーマ：フィルターのウイルス除去性能評価

研究内容：丙が製造、乙が販売するウイルス除去空気清浄機（以下「モルビ」という。）のウイルス除去性能の評価

受託研究

本学研究者所属・職名・氏名：薬学部・教授・深澤 昌史

相手先機関名： 有限会社ダブ

研究テーマ：針無しミツバチ由来蜂蜜に関する研究

研究内容：マレーシア産針無しミツバチが産生する蜂蜜はプロポリス等を豊富に含有し、抗酸化作用や抗腫瘍細胞能が研究されているが、今回、エンベロープウイルスであるインフルエンザウイルス及び非エンベロープウイルスであるネコカリシウイルスを用いて、その抗ウイルス効果を評価する。

共同研究

本学研究者所属・職名・氏名：人間社会学部・教授・井上英也

相手先機関名、研究代表者名：株式会社リンレイ マーケティング本部長 加藤久幸

研究テーマ：コロナ禍における衛生的で効率的なホテル清掃手法について

研究内容：コロナ禍においてホテル清掃を外部清掃会社に委託するのではなく、社員やアルバイトが行うケースが増えている。今後もこの傾向は続くと考えられる為清掃の初心者でも感染症対策も含めた衛生的で効率的な清掃が実施できる手法に関し、研究する。